



狙いは新興国

平安製作所

平安製作所(滋賀県高島市、高橋鉄次社長、0740・27・1271)は、インドネシアの自動車部品メーカーのパミンド(ジャカルタ市)と技術供与を軸に業務提携した。まずは駆動系部品のドライブプレート

ドライブプレート

(写真)の生産技術をライセンス提供する。パミンドを拠点に、「東南アジアへ進出する日系自動車メーカーに部品を供給する」(荒木邦彦会長)狙い。同社として、本格的な海外展開の第1弾となる。

平安製作所はドライブプレートをプレス加工で一体成形する技術を供与する。自社の技術者や営業担当者をパミンドに派遣。生産技術とともに、品質管理を含む現場改善や生産ラインの設計なども支援する。パミンドの技術者を日本に招へいして、技術研修すること

インドネシア企業と提携



も検討している。営業担当はVA(価値分析)提案の手法などを指導し、営業体制の強化にも協力する方針だ。

今回の提携は生産拠点を構えずに海外進出したい平安製作所と、日本企業の高い技術力を吸収して受注拡大を狙うパミンドの思惑が一致して実現。パミンドとの協業でドライブプレートの生産量は2年後に、現状比2倍の年産100万個に増加する見通し。荒木会長は「業務提携を足掛かりに海外事業を本格化し、2年後に海外売上高で年2億円を目指したい」と力を

込める。

技術供与が一定程度進んだ段階で、パミンドへの出資も検討する。資本関係の構築で両社の結びつきを強め、技術流出のリスクを軽減する狙い。荒木会長は「出資は早ければ2年以内をめどに考えて

いる」としており、円滑な技術供与に向けた体制の整備を急ぐ。

平安製作所はインドネシアに進出する日系自動車メーカー2社に対し、パミンドを通じて部品供給する了承も得た。東南アジアではASEAN自由貿易地域(AFTA)に伴い、域内生産の部品を一定割合使うと関税が優遇されることから、日系自動車メーカーは部品の現地調達を推進。このため、平安製作所も現地進出を検討したが、大規模投資によるリスクが大きいと判断。パミンドとの協業を選んだ。(京都・長塚崇寛)